

## ハンノキカミキリ

ハンノキ類の幹の細い部分の材内に穿孔するイモムシ（幼虫）。最大長約30mm。幹に穴が開き、木くずがでる。成虫はカミキリムシ、最大長約20mm。体は黒く、さやばねの縁が細く赤い。枝の樹皮や葉を食べる。

【学名】 *Cagosima sanguinolenta*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），カミキリムシ科（Cerambycidae）

### 【生態】

卵から成虫まで1～2年かかるといわれている。成虫は6月頃に発生。雌成虫は樹皮に4～6cmの縦長の噛み傷を付け産卵する。産卵はおもに細い幹（直径5cm以下）に行われる。幼虫で越冬。

### 【被害】

ハンノキ類の造林地でしばしば発生するとされる。北海道内では被害記録はないようである。

### 【文献】

1994. 遠田暢男. ハンノキカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 228-229. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ハンノキカミキリ kamikiri/hannoki/  
kaisetv.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/30.